

令和4年度第2回 食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会 会議録	
日 時	令和5年2月17日(金) 午前10時00分～12時00分
開催場所	市庁舎18階 みなと4会議室
出席者	向井部会長、吉川委員、大津委員、小島委員、齊藤委員、横田委員、仲辻委員(順不同)
欠席者	0人
開催形態	公開(傍聴者0人)
議 題	1 部会長の選任 2 令和5年度 食の安全を考えるシンポジウムについて
資 料	1 令和5年度 リスクコミュニケーション事業 食の安全を考えるシンポジウム(案)について
決定事項	議題1 部会長が向井委員に決定した。 議題2 令和5年度 食の安全を考えるシンポジウムについて、開催時間は午前とし、録画配信を行うこととした。 シンポジウムを無観客で行う判断は8月上旬に行い、その際の撮影場所は社会福祉センターのホールとした。 テーマは、野菜を中心とした食の安全に関する内容に決定した。
議 事	<p>議題1 部会長の選出について</p> <p>事務局 食の安全・安心推進横浜会議リスクコミュニケーション検討部会設置要綱第3条2に基づいて部会長は委員の互選で選任となるが、推薦等はあるか。</p> <p>小島委員 向井委員は、「食の安全を考えるシンポジウム」に講師で参加されたりと知識と経験が豊富なので、ぜひお願いしたい。</p> <p>(委員一同) (拍手で承認)</p> <p>向井委員 よろしくお願いいたします。 向井委員が部会長に就任</p> <p>議題2 令和5年度のリスクコミュニケーション事業 食の安全を考えるシンポジウム(案)について</p> <p>事務局 (資料1～4に沿って説明)</p> <p>向井部会長 開催日は令和5年11月25日土曜日、会場は横浜市社会福祉センターのホールを予定している。開催時間について、午前開催と午後開催、どちらがよいか、</p> <p>吉川委員 開催時間のアンケートで賛否両論があったとはどのようなことか。</p> <p>事務局 午前開催時のアンケートは午前が良いとの意見が多く、午後開催時は、午後が良いという方が多かった。また午前、午後開催希望が同じぐらいあるため決めにくいという意見が出た。</p> <p>向井部会長 では開催時間については、先にテーマについて検討し、その内容に合わせて午前、午後どちらにするか決定することとする。 資料1の4 開催方法(1) 動画の録画配信について、それぞれのメリッ</p>

	ト、デメリットがあるが、どう思うか。
横田委員	YouTube 配信は、見る方も増えているし、会場に来られない方にも見ていただけるため、必要と考える。
仲辻委員	録画した DVD を教材として使えるなら、観てもらえる範囲も広がるのであったほうが良い。
向井部会長	デメリットは撮り直しができないため、そのまま録画配信されてしまうことだが、去年は、編集や言い直し、撮り直しを行ったのか。
事務局	撮り直し、編集を行った。
向井部会長	過去 2 年と異なり観客に向けて話し、それを横から撮るのが心配である。 録画配信はニーズもあり、必要だと思うが、シンポジウムを録画したものであることがわかる演出、編集を前提とすべきである。
事務局	編集時に留意する。
小島委員	録画配信は良いと思うが、編集後、登壇者の確認が必要である。
向井部会長	資料 1 の 4 (2) の開催方法の無観客で行う判断をする時期について、事務局からの提案は 8 月上旬までということだが、いかがか。
仲辻委員	事務局の判断でよいと思う。
事務局	急な社会情勢の変化があれば、直前でも無観客で行う判断をするが、目安として 8 月とし、委員の方のご意見聞き進めていきたい。
向井委員	資料 1 の 4 (3)、無観客で録画配信を行う場合の撮影場所については市庁舎の会議室、もしくは社会福祉センターのホール、どちらがよいか。
仲辻委員	以前市庁舎の会議室で撮影したが、教育ツールとしての DVD 等では良いと思うが、YouTube 等で見るとなると、ホールのほうが一緒に参加している感じがあり、観る方にも共感を得やすいのでは。
横田委員	社会福祉センターのホールのほうが、実際に会場で参加しているイメージが湧くのでは。
向井部会長	では、無観客で録画配信をする場合も、ホールで行うことで決めることとする。
事務局	(シンポジウムのテーマについて、参考資料の 1～5 に従って説明)
向井委員	各委員からテーマについて事前に意見をもらったが、改めてご説明をいただきたい。 (各委員 説明) (質疑・意見)
仲辻委員	シンポジウムの過去のテーマが魚、肉なので、農業をテーマに少し広げるのはいかがか。O157 などの食中毒が野菜でも起こるので、家庭でも、野菜もきれいに洗う等の話ができると思う。
向井部会長	農産物や植物をキーにして、いわゆる植物性自然毒、食中毒、残留農薬を中心にする、いろいろな面からの話ができそうだと考える。

仲辻委員	講演者も、生産者の方の意見などを聞き、あわせて GAP の話も聞けたら良いと考える。
横田委員	当組合でもグローバル GAP の認証は取っている。また残留農薬もどのようにチェックしているのかといった話ができる。
小島委員	残留農薬には、やはり悪いイメージがある。
横田委員	いろいろな複雑な因果関係があつて出てしまうこともあるが、基本的な話を聞いていただくのは良いのでは。
向井部会長	実際に農薬を使っている生産者の方々の声や、それをリスク管理している側の声など、いろいろな立場の方からお話を聞けると面白い。
小島委員	消費者は、たとえ農薬がかかっているとしても、自分の手元でつくったものは安全だという感覚がある。家庭菜園などを行う人も増えているので、そういうことも考えたい。
向井部会長	ニラと水仙の誤食のような植物性自然毒も面白いテーマだと思う。
事務局	植物性自然毒を原因とする食中毒について、厚労省の令和 4 年度速報値で 34 件発生し、151 人の患者が出ている。
向井部会長	ではテーマは農産物や植物と決定し、開催時間について午前・午後どちらに行うかを、テーマに則して考えるといかがか。 子育て世代も含めた多くの年代の方が来やすい時間とは、午前開催がやりやすいのかと考えるが、いかがか。
吉川委員	動画でも残すので、午前開催でいいと考える。
向井委員	では部会としては午前開催で決定する。
事務局	(資料 1 の 6、実施までのスケジュールについて、説明) パネルディスカッションのコーディネーター、パネリストの消費者代表をリスクコミュニケーション部会の方からお願いしたく、5 月の部会で決めていただきたいと考える。
閉会	